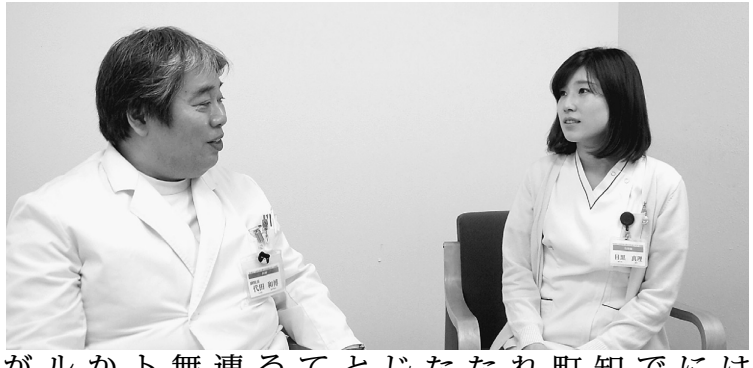
東日本大震災・福島第一原発事故
あれから7年　あの日を忘れない

故郷の復興を願う目黒保健師に聞く

東日本大震災・福島第一原発事故からもうすぐ7年。原発被害の福島などでは、今だ、復興が進まず、政府の自主避難を除いた数でも6万人以上の方たちが避難しています。今号では、被災・被害地、福島県出身の目黒真理保健師に代田博和医師が当時の様子や故郷への思いなどを聞きました。


左、代田医師。右、目黒保健師

保健師　目黒真理

目黒　今日は、貴重なお時間ありがとうございます。私が被災したというより、家族が被災し、その時、母と一番近くでやり取りをして、母にも電話して、あらためて、あの時、どうだったかなって話を聞き、その時の思いや感じた事など何かお伝えできればと思い今日は来ました。よろしくお願い致します。

まず、私の自己紹介をさせて頂きます。私の出身は、福島県相馬郡新地町で、福島県最北端の浜通りの一番北に位置し、そこが私の生まれです。看護師を1年経験し、保健師を2年、今年で4年目です。震災当時は大学生でした。

実家は父と母、兄家族、祖父母の七人で暮らしていました。当日、私はたまたま白河市の車中にいてラジオのニュースで宮城県沖地震の発生を知りました。実家の新地町は宮城県堺なので、これはまずい事が起きたと思い母に電話したんです。電話は通じず、暫くしてやっとメールの返信が来て、近くの海が見える神社に避難したと連絡があり、家族が無事で何よりもホットしました。そのつかの間、兄からメールで「津波が来て街が半分無くなった」とだけ連絡が来ました。その時は、まだ報道がなく、血の気が引きました。

実家は半壊状態で、庭は地割れし、父母と犬、祖父母は車中などで泊まりました。その翌日です「**原発が爆発した、これから、栃木のあなたの家に避難する**」とメールの着信があり、車2台で7人が、私の1部屋しかない狭いアパートに避難してギュウギュウで雑魚寝をしました。

原発の影響で家に帰れず、着の身着のまま避難した祖父は「早く帰りたい」と何度も何度も繰り返し、説得するのがとても辛かったです。その後、仮設住宅に暮し、半壊の判定がやっと取れ、3年かかり建て替えし、現在、街の復興のために新地町で生活を続けています。

新地駅。11・3・29撮影：下枝長年

今、風評被害が深刻で、私は福島のおコメを食べていますが、とても美味しいんです。他の地域よりも厳しい検査を通りどこよりも安全なんです。風評被害が復興の大きな妨げになっています。

地元の人しか分からない事として賠償等のお金の差で「あの人は、いっぱい貰っている」、「貰えなかった」人もいる。そういう人たちが、隣り合わせに暮らして、復興の街づくりの障害になっています。都心などと少し違い、隣ご近所などの関係が深い田舎では、そこが、とても苦痛だと聞きました。これも原発の被害だと思います。そんな中で原発の問題も口に出し辛い人が多いそうです。

医師　代田博和

新地駅。原型を留めないほどの電車、撮影：下枝長年

東京にいても頑張れることがある

代田　代々木病院に就職を決めた理由を教えて下さい。

目黒　これは、導かれるというか、ご縁があって、新地町の保健師に空きがなかったため、調べていたら、たまたま代々木病院の健診センターのホームページを見たら、福島県の人の検診を無料でやっていて、収益のためではなく、国の事業ではないと書いてありました。広島、長崎の被爆医療も長くやってきた病院と知って、何か惹かれるものを感じて、すぐに連絡しました。

1年後、幸か不幸か新地町から連絡があったのですが、代々木病院に来て間もなくだったので、お断りすることになっちゃいましたけど、ここでの取り組みは「地元にも貢献できるかもしれない、我武者羅に新地町に帰ることだけが貢献ではない」、東京にいても、出来る事、頑張れることは沢山あるんだなって事を沢山教えてもらった気がします。それを、代々

（5面につづく）

～風化させてはいけない被災地の今～
～管理者研修で見学してきた現状～

代々木病院
3階病棟師長
加藤深雪

福島にもっと支援の輪を

私は管理者研修で10月18～19日の1泊2日で被災地を視察しました。実際の現地は、学んだ内容以上に酷いものでした。

福島では、国や東電側から避難区域の解除と賠償金の終了が進すむ話を聞きました。

政府は避難者数に避難先での死亡数や、余儀なく災害復興住宅に入居した人、みなしの仮設入居者を避難者としてカウントせず、復興が進んでいるかのように装っているといいます。さらに、避難区域が解除され、戻ったとしても就職口や学校が少ない問題、健康被害の不安、避難区域毎の賠償の違いによる人間関係のもつれ、帰りたくも帰れない人達への支援策が国からない中、補償打ち切りで家に戻っても住宅ローンや固定資産税の支払いができないなどの問題を顧みない国などの非情な対応と被災地の実情を知りました。

福島の今を知ってほしい

小名浜生協病院事務長の案内で視察した浪江町では、線量計のついた新しい駅があるが利用者は見当たらない。避難区域が解除されても105名しか帰還していないといいます。

双葉町と大熊町は、帰還困難区域のためバス内から視察。富岡町は震災当時のままの中学校、津波で全壊した駅は、新しくなり復興に向かっているように見えるが、帰還率は1・6％。最後に県内最多の避難者が住むいわき市では賠償金の違いによるトラブルなども起き、隔てた場所に住んでいるといいます。

様々な問題が解決されないまま現状を伝えない今、広野町には震災前に無償で東電が作ったスタジアムがあり、2020年のオリンピックで使用できるように整備している。県内外の避難区域で、故郷を無くし半ば諦めの気持ちでその場に適応しようと避難者に無理を強いている。賠償を打ち切ってまでオリンピックを開催し、見せかけの景気回復を報道している。私は、風化させてはいけない福島の今を多くの人に知って頂き、支援の輪を広げていきたい。

いわき市仮設住宅、2014年10月

新富岡駅とその周辺